⚠ 注　意

●絶縁抵抗測定の際は、端子に触れないでください。感電のおそれがあります。
●ギアモータの表面は高温になるので、素手でさわらないでください。やけどのおそれがあります。
●防爆形モータの場合、絶縁抵抗測定の際は、周囲にガス又は蒸気の爆発性雰囲気がないことを確認してください。爆発、引火のおそれがあります。
●異常が発生した場合の診断は、取扱説明書に基づいて実施してください。異常の原因を究明し対策処置を施すまでは絶対に運転しないでください。
●修理、分解、組立は、必ず専門家が行ってください。感電、けが、火災等のおそれがあります。

[注] お客様にて保守・点検を目的としてグリース・オイルシール・Oリングの交換が必要な場合は取扱説明書の最終ページに記載してある最寄の当社営業所もしくはCSセンターお客様技術相談デスクにお問い合わせください。ただし、お客様での交換に起因する不具合は当社保証範囲外となります。ご了承願います。

1 日常点検　2〜3日ごとに点検してください。

点検項目	方　法	点検内容
負荷電流	電流計	銘板記載の定格電流以内であること
騒音	聴　感	異常音（ガタゴト音、周期音）がないこと
	聴音棒	軸受部聴音棒を使用すると異常音がわかり易い
振動	触　感	ギアケース、モータフレームの異常振動がないこと
表面温度	温度計	80℃以下のこと
グリース漏れ	目　視	ケース、オイルシール、ブラケット等の接合部から漏れていないこと

2 定期点検（8時間／日運転を想定します）

点検項目		点検目安	点検内容
据え付けボルト		半　年	スパナでゆるみ確認　ゆるみは増し締め
チェーン及びVベルト		半　年	張り具合（ゆるみ、張りすぎ）の確認 ゆるみ、張りすぎは調整してください
モータの絶縁抵抗		半　年	絶縁抵抗器で500Vの時1MΩ以上のこと
ブレーキ	ギャップ量	1年または ブレーキ使用回数 100〜150万回	適正ギャップ範囲か確認 調整は次ページの調整方法を参照して行ってください
	摩擦板の厚さ	1　年	摩擦板の厚さを確認 1.5mm以下の時は交換又は当社工場で修理してください

点検にて異常が認められた場合は、9.「故障の原因と対策」を参照して対策処置を行ってください。

3 ブレーキギャップの調整方法

⚠ 危　険

1　ギャップ調整時は、必ず電源を切って行ってください。けがの恐れがあります。また、キクナットを外してしまった場合、取付方向に御注意願います。誤った方向で取付致しますと破損の恐れがあります。正しい方向につきましては■キクナット取付方法を御参照ください。
2　ギャップの点検、調整後は、本運転する前に電源を入、切してブレーキの動作を確認してください。落下、暴走事故のおそれがあります。
3　点検、調整後は、ファンカバーを外したままモータを運転しないでください。巻き込まれ、けがのおそれがあります。

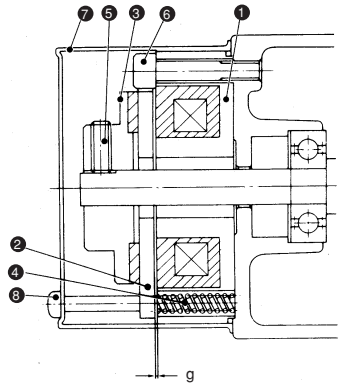
(1)　ブレーキ付ギアモータのブレーキギャップの調整方法

ブレーキを長時間使用いたしますと、摩擦板が摩耗しギャップ〔g〕が徐々に大きくなります。ギャップ〔g〕が吸引可能ギャップより広がりますと、マグネットを励磁してもアーマチュアの吸引が困難となりブレーキの解放ができなくなります。
その後も使用し続けますと、ブレーキが効いたままモータを回すことになりますので、ブレーキやモータの異常発熱を起こしブレーキモータの機能を低下させます。本機を安全に使用していただくために定期的（約１年毎又はブレーキ使用回数100～150万回毎）にギャップの点検又は調整を行ってください。

■ギャップの調整方法（モータ容量　三相/50W）

●減速比1/240以下の場合

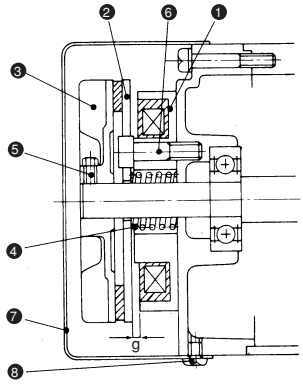
①ブレーキカバーを取りはずします。
②六角穴付止メネジをゆるめ、マサツディスククミをはずします。
③フィールドとアーマチュアの間に0.2～0.3mmの板をはさみマサツディスククミを押し込みます。
④六角穴付止メネジにゆるみ止めを塗布して締め込みます。
⑤0.2～0.3mmの板をはずします。



❶ フィールド
❷ アーマチュア
❸ マサツディスククミ
❹ スプリング
❺ 六角穴付止メネジ
❻ 六角穴付ボルト
❼ ブレーキカバー
❽ ブレーキカバー固定ネジ
g：ギャップ

●減速比1/300以上の場合

①ファンカバーを取りはずします。
②十字穴付六角ボルトをゆるめ、ファン組をはずします。
③フィールドとアーマチュアの間に0.4～0.5mmの板をはさみファン組を押し込みます。
④十字穴付六角ボルトにゆるみ止めを塗布して締め込みます。
⑤0.4～0.5mmの板をはずします。



❶ フィールド
❷ アーマチュア
❸ ファン組
❹ スプリング
❺ 十字穴付六角ボルト
❻ 六角穴付ボルト
❼ ファンカバー
❽ ファンカバー固定ネジ
g：ギャップ